

雑誌 STYLE-HOUSE2 に紹介されました



バス、トイレ、コンロ、冷蔵庫や棚などは、あらかじめ装備。もちろんすべて、メイドインUSA。エアコンはオプションで、全室にダクトが設置済み。セントラルヒーティングで、どの部屋も同じ温度に設定できる。ちなみに、日本とアメリカでは電圧が違うため、あらかじめ設置されているアメリカ製の電子レンジや冷蔵庫などは、日本仕様として変圧器が介され125Vで動いている。コンセントは100Vで日本製品が問題なく使用可能。

Stylish home.#17
 露崎邸
 <<location>> 千葉県
 <<category>> 家



蛍光灯が収まるダイニングキッチン天井部分は、アクリルカバーで覆われ、シーリングファンも装着される。

コンクリートとシャーシの間にはオリジナルの独立基礎が計10個増ませてあり、シャーシ4隅と地面はワイヤーとクランプで固定される。輸入時の自動車通関証明書は、この住宅が自動車として証明されていることの記し。



このデッキは、洗濯を干すために露崎さんが制作したもので、この空間が室内から外を見た場合の広々感にも役立っている。トレーラーハウスのメンテナンスとしては、シャーシにサビ止めを塗ったりすることが必要。搬入時には家の垣根をすべて撤出して設置。



Stylish home. Part-1: 住宅にこだわる



垣 根の向こうにたたずむ、アメリカンハウス。しかも羨ましいことに平屋。輸入住宅的雰囲気は持つものの、一見すると特になんの変哲もないこの家の正体……それは動かすことが可能な家、トレーラーハウスです。

クルマ同様、タイヤの上にシャーシがあり、その土台の上に2×4住宅が建っているというこの独特のスタイルは、アメリカが発祥の地。土地を手に入れてトレーラーハウスをオーダーしたら、あとは家がクルマに牽引されてくるのを待つだけ！ しかもこの家には、家具や家電まで付いているから、搬入されたその日から生活できてしまいます。

ここで紹介するのは、そんなトレーラーハウスで実際に生活を送っている露崎さんのお宅。ハタチの時にイリノイ州の大学に5年ほど留学していた露崎さんは、ルアーフィッシングを趣味とする大のアメリカ好き。留学時代は、学校の寮やアパートなどを転々としていたものの、米風な平屋の生活をずっと理想としていました。帰国後、結婚を機に住む場所を考え、た彼でしたが、お金をかけずうまく生活する方法を模索。その結果、留学時に見たトレーラーハウスを思い出したというわけです。

購入したのは、カブコホームズのJP201-Aというタイプで、高気密で断熱に優れた寒冷地仕様をチョイス。オーダーされたトレーラーハウスはアメリカを出発し、結婚と同時期に、横浜の本牧港から真夜中に牽引されてきました。実家の敷地内に設置することとなったトレーラーハウスですが、そのまま置いただけでは、振動など不安な面があるために、彼の父親とともにDIYで基礎を設置。自ら生コンを型に流し込んで独立基礎を制作するなど、電気、ガス、水道などの付帯工事以外のことはすべて自作で完成させたのです。

日本にいながらのスモールアメリカンがコンセプトという、露崎さんの住まい。あらかじめ土地があり、さらに独立した住居を構えたい場合などは、かなりオススメといえそう。今後は子供用の滑り台が、自作デッキの横にDIYで取り付けられる予定とか



家族3人、快適に過ごせる！ 走る家……トレーラーハウス

土地を手に入れたら、家をクルマで引っ張ってくれば我が家の完成！ 走る家、トレーラーハウスという選択はいかがですか？

ウッドデッキも取り付けられて、一見平屋の輸入住宅というスタイル。この家がタイヤ付きで移動するなど考えられない。

DATA
 延床面積：41.58㎡
 構造：トレーラーハウス
 製品名：カブコホームズ JP201-A
 基礎：独立基礎、ヘタ基礎
 付帯工事費：150万円
 (電気、ガス、水道、浄化槽)